

# 常なる磐

つねなる いわ

令和3年2月26日(金)

その3

## ◇ 国旗・市旗・校旗 はためく

今日も、掲揚台の三旗（国旗・市旗・校旗）が「はためく」。この表現がよい。高台にある本校は風が抜ける。流れる風を旗が受け、三旗が「はためく」。

天気がよいとこんな感じ。☀

雲がたなびく背景もよいが、やはり抜けるような青空がよく似合う。


三旗の管理と掲揚・降納の担当は4年生から6年生の代表委員たち。



登校したら、代表委員が真っ先に行うのが掲揚作業だ。教室に向かう前に行くから、本校は、朝からはためく三旗を目にすることができる。

雲行きが怪しくなれば、放課を使ってさっと取り込む。責任感の強い代表委員たちは、ほんとうに頼もしい。

本校では、年度途中に三旗の掲揚位置を変更している。現状が正式な位置。調べて初めて知ったのであるが、これは本校の掲揚ポールの高さに合わせた形。

中央が高い山型のポールの場合、 左から「市旗」「国旗」「校旗」の順で、最上位の国旗が最も高い中央に配置となる。よく見る序列だ。

対して、本校のように3本のポールの長さが同じ場合、最上位が左側、順に右に流れていくので、左から「国旗」「市旗」「校旗」の順になるのである。

さて、本たよりのタイトルは、初めは「国旗・市旗・校旗 たなびく」だった。念のために表現を調べてみると、「たなびく」は、形がはっきりしないものが漂う様子。「はた」重なりでこそばゆい感じもするが、旗の場合は「はためく」が適切。軽く風を受けているときは「なびく」も使えるとのこと。勉強になった。



【岡崎市章 豆知識】（※白地に赤が正式）

市旗にある市章は、【岡】の文字のアレンジ意匠。だから、何となくオカザえもんの風合いがあるのも頷ける。

この【岡】が玉（宝珠）の中にある。三角形に配置された玉の飾りに見えるのは、岡崎城を守る竜神の爪を表す。

つまり岡崎市章は、宝石の中にある岡崎を竜神が守っているという意味をもつ。なかなか格式が高いのである。

この市章、岡崎北高校の男子学生服が学ラン（※平成に移ると同時に制服はブレザーに変更）だったころ、制服の金バッジにそのままあしらわれていた。これは、管轄が市から県に移管される前、岡崎北高校の前身が「岡崎市立高等学校」であった歴史が関係している。

スペースが余ったので、環境整備の続き。花壇壁面の再塗装が完了しました。



業者依頼対応ではない。山田校務員の力作。感謝。